



2003~2004年度

THE ROTARY CLUB OF KOSHIGAYA-NORTH

例会日：毎週水曜日 12:30~13:30

例会場：越谷市千間台東1-1-6

クオレ千間台 2F

TEL 048 (975) 9898

FAX 048 (977) 3741

創立：1976年5月11日

会 長：小林 操

副 会 長：今野 忠雄

幹 事：太田 靖彦

会報委員長：石川 輝次



第1346回例会記録 No. 08

平成15年9月3日

司会：松崎 義一

編集：石川 輝次

会次第

- 1、点鐘
- 2、ロータリーソング (奉仕の理想)
- 3、会長挨拶
- 4、幹事報告
- 5、外部卓話
- 6、終鐘

次回例会予告

平成15年9月17日
インターアクト活動報告

会長挨拶



会長 小林 操

こんにちは

9月ですね。10月15日が内のクラブのガバナー公式訪問です。その2週間前が第4回クラブ協議会、ガバナー公式訪問の内容についての事前連絡の締め切りが、9月24日です。後日、幹事または所属の委員長から連絡があると思いますが、今年度のガバナー公式訪問は、通常のクラブ協議会方式ではなく、テーマを決め、ガバナーと討論をする形です。クラブ奉仕フォーラムを終え、今月17日には入会5年以下の新会員研修会も開かれます。是非みなさん、ガバナ

一の考えを聞きたいと言う疑問、問題を考
えて頂きたいと思います。

幹事報告



幹事 大田靖彦

カバナー月信がペーパーレスになり
まして電子メールで届いております。
皆さんもメールでご覧になった方も
いらっしゃるでしょうが、プリントし
て「掲示板」に貼っておきますのでご
覧下さい。

結婚祝・誕生祝

誕生祝：宇田川芳行会員、菅野博会員、
高橋正美会員、若海兵馬会員
辺見八十宣会員、降田富男会
員

結婚祝：亀田栄一会員



お祝いの謝辞

代表して宇田川芳行会員

みなさん今日は誕生祝ありがとうご
ざいました。コメントという事ですが
私は誕生日が9月29日で85歳を
迎えます。心は青春ですけれども体
の方は中々反比例するようです。全く心
は青春のままでございまして、でき
れば六本木のライブハウスでタップで
も踏みたいなという心境は残ってお
ります。本日はどうもありがとうございます。

お客様挨拶



米山奨学生
邢 子強さん

皆さん今日は。ロータリーの奨学生邢子強(ケイ シキョウ)です。いつもこんな暑い日に家で勉強すると、すぐロータリーアンの皆様の事を思い出します。皆さんのおかげでバイトをせずに勉強に集中できます。心から皆さんに感謝しております。いつも留学生の友達と話しをして、仕事の大変さの話になるとまた、ロータリーアンの皆様の事を思い出します。皆さんに感謝の気持ちで本当にいっぱいです。いろんな方面から助かっています。

卒業するまで、あと半年なんですけど、実は論文の提出日まであとわずか四ヶ月です。ちょっと焦っているところがあるんですけど、いつも指導教授の熱心な指導を受けながら頑張っているからとても順調です。

ここで、学校の話になりますが、私は今越谷小学校でボランティアの教師として英語を教えております。今年の5月から始まって、週一回ほど一年間の予定です。この教学活動を通じて、今度理論的ではなく実際に小学校入っているいろんな触れてないことを経験させていただけます。修士論文の役にも立つし、これからの教育仕事にも非常に珍しいチャンスだと思います。

これからも皆さんのご期待に裏切らないように、より一層頑張っていきたいと思います。

(原文のまま)

外部卓話



元インターアクト

大山みどり さん

先ほど紹介がありましたように、私は獨協埼玉高等学校に在学中にインターアクトに所属し、活動をしていました。高校2年生のときはインターアクトの会長を勤めさせて頂きました。インターアクトの活動で得たこと、その経験は今どのように役に立っているかをお話ししようと思っておりましたが、先日ドイツから返ってきたばかりで、帰ってきて考えたので話の中心がドイツの話になってしまいました。それもインターアクトの影響が強いのので、是非聞いていただければと思います。

インターアクトでの活動

インターアクトでの活動についてなんですけど、獨協埼玉高校のインターアクトの活動は月1回の例会がありました。あとは竹ノ塚で「ででこいサークル」というボランティアに参加したり、文化祭では何かについて調べて発表したり、赤い羽根、緑の羽根の募金活動をしたりしました。しかし学校内での活動より、学校外での活動がほとんどだったと思います。その中でも私が特に印象に残っているものが2

つあります。

一つ目は私が高校2年のときの文化祭で調べた盲導犬についてです。もしかしたら、ついこの前までNHKで放送されていた「盲導犬クイールの一生」をご覧になっていた方もいらっしゃるかもしれませんね。盲導犬のことについて意外に知らないことが多いと思います。実際の盲導犬を見たことがない方もいらっしゃるかもしれません。ついつい熱く語りそうになってしまいますが、ここは盲導犬のことを語る場ではないので、控えさせていただきます。当時私は電車で学校まで通学していたのですが、毎朝同じ電車で盲導犬を見ていました。はじめは賢い犬だなというイメージでただ眺めていましたが、その年インターアクトの話し合いで、文化祭で盲導犬について調べることになりました。しかし、どこを糸口に調べていいのかわからず苦戦しているときに、たまたま父の友人に日本盲導犬協会の人がいることが判明し、その方からいろいろとお話をうかがうことができました。そして実際に盲導犬訓練センターに伺うことになりました。訓練センターでは本当に賢く、かわいらしい盲導犬をみることができました。その後、訓練センターの方が気を利かせてくれて、文化祭に盲導犬とその使用者の方を呼べるようにしていただきました。実際の盲導犬とその使用者の方に接するのは初めての経験だったので、とても興奮しました。そのときお会いした方の使用

している盲導犬はもう高齢だから、もうすぐ引退し、お別れをするということでした。使用者の方の寂しそうな表情から、盲導犬は目の不自由な方の物理的なものだけでなく、心の支えにもなっているということを感じました。今でも日本盲導犬協会の募金箱を見ると、いつも思わず募金してしまいます。盲導犬を待っている方は多くいらっしゃると思います。しかし盲導犬を育てるのにはとてもお金がかかるのです。もし日本盲導犬協会の募金箱をみたら、みなさんも募金してくださいね。

やはり、私に最も影響を与えたのは、高校2年生の時に行った韓国研修ではなかったかと思います。短かったけれども、韓国での出来事は一生忘れることが出来ません。韓国研修に行くことが決まるまでは、韓国という国はよく言われるように、まさに近くて遠い国でした。しかし韓国に行ってからそうではなくなりました。お隣の国という当たり前の気持ちを持てるようになりました。

また、韓国で出会った家族は温かく、とても親身になって私の面倒をみてくれました。とても家族仲のいい家族で、お父さんはお母さんのことをとても大事にしているのが伝わってきました。お母さんは私を本当の娘のようにさまざまなことを心配してくれて、私の抱えていた不安を一気に吹き飛ばしてくれました。子供は私より1つ年上のお兄さんと3つ年上のお姉さんがいました。二人ともとても親切で、

特にお兄さんとは年が近かったから、毎晩深夜まで語り合いました。私と大して年の変わらないお兄さんが、将来のこと、兵役制度のこと、北朝鮮の問題などをとても真剣に考えていることに胸を打たれました。ほとんど英語で時々ハングルと絵に書いたりして、コミュニケーションをとっていました。このお兄さんとは今でも時々連絡を取っています。今年の7月には日本に来てくれました。予定が合わなくて、会うことは出来ませんでした。今でもいろいろな話をします。

また、韓国研修中にこれは私のホームステイした家庭ではないのですが、違う家庭に遊びに行ったときに、一人のおばあさんに出会いました。その方は日本語を話すことができる人でした。「56年ぶりに日本語を話したよ。私の日本語はあっているかい？」と聞かれました。戦争の爪あとの恐ろしさを感じ、怖くなったのを覚えています。

韓国に行ってから、私の視野が広がったように感じました。今まで日本からしか見ていなかった物事が、他の視点からも見れるようになったと感じました。当たり前のことですが、実感を持って、世界にはさまざまな人がいることを感じました。大学受験も近づいていた時期だったので、私に与えた影響はとても大きかったと思います。

以前から大学ではドイツ語を勉強しようと考えていました。獨協埼玉高校にはドイツ語の授業があるから、入ったぐらいドイツ語が好きでした。や

はり以前ドイツに住んでいて、ドイツの幼稚園に通っていましたが、ドイツの雰囲気がすごく好きでした。しかし滞在していた時期が幼すぎて、ぺらぺらだったドイツ語もすっかり忘れてしまっていました。けれども、もう1度ドイツ語を話せるようになって、ドイツに行くのが私の夢でした。

韓国に行って、韓国の雰囲気もすごく好きになり、ハングルを学びたいと思ったものの、結局は初心を貫き、獨協大学外国語学部ドイツ語学科に進学しました。

そして、ドイツ語を学んでいくうちに、ドイツに行きたくなってきました。ドイツの街並み、ドイツの雰囲気に飛び込もうと思って、この夏ドイツの大学に短期留学しました。みなさん、ご存知かと思いますが、今年のヨーロッパはとても暑く、体温よりも高い気温の日が何日も続きました。ドイツは普段夏でも日本のように暑くはないので、エアコンというものがありません。むしろ必要ないと言ったほうが正しいのかもしれませんが。日本ならば、夏になると、電車やバス、お店に入ると「涼しい」と感じるのが普通ですが、今年のドイツでは電車やバスは蒸し風呂状態でした。

そんな中私の留学生活は始まりました。海外に行くのは韓国研修以来でした。韓国に行ったときは、先生方やロータリーのみなさんに守られていたんだなと実感しました。大学生になった今、留学先では分からないことも、

自分で解決しなければなりません。自分で切り開かないと道は生まれないのです。まだドイツ語をちゃんと習い始めて、1年半ほどで、ドイツ語のままならない私は始めの数日間で精神的にかなり追い詰められてしまいました。ドイツ語で思ったことをうまく表現できないもどかしさ、食生活の変化、周りにすぐ相談できる友人や家族がないことのつらさ、留学先に思ったよりも日本人が多く、ついつい日本語を使ってしまうなんともいえないもどかしさに疲れてしまったのです。しかしそれを乗り越えさせてくれたのは、そこでできた友人たちでした。多くは日本人でしたが、スペイン人、トルコ人、韓国人、中国人も含まれていました。異国の地で苦労しているのは私だけでなく、周りの留学生たちも同じだったのです。それからの留学生活は一気に楽しくなりました。周りに支えてくれる人がいるということが私自身にもものすごく力を与えてくれました。悩んでもすぐに相談できる人がいることのありがたみを実感することができました。普段当たり前すぎて気がつかないことに気がつくことができよかったですなと思います。

それからは積極的に活動できるようになりました。そして、夢だった私が通っていた幼稚園を13年ぶりに訪れることができました。地図を頼りに、電車とバスを乗り継ぎ、10分ぐらい歩くと幼稚園は私が通っていたときのまま今も残っていました。授業

があるため日曜日にしか行けなかったのも、誰もいませんでしたが、逆にそれがよかったのかもしれませんが。じっくり見てくることができました。見れば見るほど、さまざまな思い出が私の脳裏をよぎりました。と同時に、ここが私の原点であることを感じました。静かな衝撃が私を襲いました。私はドイツ語を再び話せるようになって、もう一度ここを訪れたいと強く思いました。

慣れてきたころに帰るとというのが留学だとよく言われますが、まさにその通りです。せつかく慣れたときに、友人との別れ、ドイツとの別れがやってきました。まだ帰国三日目ですから、別れのつらさから立ち直ったわけではありません。名残惜しくて、腕時計の時間をドイツ時間から日本時間に直せないほどです。けれども、これからいつかまた友人たちにも会える、ドイツにもいけると信じています。13年越しの幼稚園をもう一度訪れたいという私の願いはかないました。子供みたいですが、願いは強く思い、実現のために努力を惜しまなければ、かなうものだと信じています。

振り返ってみると、インターアクトでの活動は私にとって大事なものになっていることに気がつきました。インターアクトの活動を通して、私はさまざまな人と出会いました。韓国研修では他の高校の人と親しくなれましたし、もちろん韓国に知り合いもできました。ロータリーの方たちにはいつ

も温かいアドバイスを頂きました。父のように楽しく話していたことを懐かしく思います。それだけではありません。インターアクトの活動を通して、体の不自由な人に多く出会いました。しかし彼らは私よりも常に生き生きとしていて、いつも私のほうががんばらなくては、と励まされていたように感じます。このような出会いの中で、世の中にはさまざまな分野でがんばっている人がたくさんいる、と実感しました。この気持ちからいろいろなことに挑戦して、精一杯がんばってみよう、という前向きな今の私が出来上がったのではないかと思います。友人に誘われるがままに入ったインターアクトでしたが、インターアクトで韓国研修に行ったり、さまざまな経験をしていなかったら、一人でドイツ語で書かれた説明書を読み、ドイツに短期留学しようという気になれなかったと思います。基礎があって、自信があったからこそ、踏み出せたのではないかと思います。活動していた当時は分かりませんでしたでしたが、今は心からインターアクトクラブに所属して活動していてよかったなと思っています。私をこのような気持ちにさせてくれたのはロータリーのみなさんのご支援・ご協力があったからだと思っています。本当にありがとうございました。インターアクトでの活動が少なくとも私には無駄ではなかったということが皆さんに伝わっていればと思います。

私のつまらない話に耳を傾けて頂

きありがとうございます。

(原文のまま)



委員会報告



ロータリー財団

財団奨学生カウンセラー報告

上床和秀

奨学生、堂内直子さんが8月24日ドイツへ向けて出発しました。

(彼女からのお便り)

1年間の準備期間中は大変お世話になりました。出発にあたってお餞別まで頂きありがとうございます。9月中はフランクフルトの学校でドイツ語をみっちり勉強し10月からミュンスター大学で本格的な勉強に入ります。会員の皆様にくれぐれも宜しくとの事でした。



親睦活動委員会委員長 大熊正行

先日の例会でご案内させていただきました「第1回目のグルメ探訪」に多数のお申込みをいただきましてありがとうございました。まだ若干の空きがありますのでご希望の方がいらっしゃいましたら例会終了までにお申し出ください。尚、当日9月6日(土)は、午後4時半に千間台駅西口のりそな銀行前にマイクロバスを待機させておりますので、お間違いのないようお願いいたします。参加者の方には前日までに再度FAXにてご案内を送信いたします。よろしくお願いたします。



米山奨学委員会副委員長 櫻井智之

来月、10月は米山月間ですのでご寄付のご協力をお願い致します。目標額は一人20,000円です。分割でも受付させていただきますので宜しくお願申し上げます。

3分間ロータリー情報



情報委員会委員長 辺見八十宣

8月号で気になった記事がございましたので紹介いたします。20ページに「発祥シカゴRCの裏と表」という記事です。会員数が425名、その内女性会員が70名だそうです。年会費が48,000円だそうです。運営をどのようにしているのか非常に興味を持ちますし、ちょっとビックリしました。もう一つビックリしたのは奉仕事業でポリオプラスのようなプロジェクト等で200万ドルもの寄付が集まるという事です。又、会長選挙の方法も立候補者がスタッフを先に組んで立候補するのだそうです。選挙戦は厳しいようですが選挙が終わればロータリアン同士で仲良くなるそうです。ちょっと面白い記事かと思い紹介させて頂きました。

出席報告

会員数	51名
出席免除	4名
出席者	34名
欠席者	13名
出席率	74.5%